黙想:受難の火曜日

黙想のテーマ:「聖ペトロは 謙遜であることを学んだ」 「私たちの弱さと裏切りにつ いて」「聖ペトロは神に信頼 する必要を理解した」

聖ペトロは謙遜であることを学んだ

私たちの弱さと裏切りについて

聖ペトロは神に信頼する必要を理解 した

「わたしのために命を捨てると言う のか。 はっきり言っておく。鶏が鳴

くまでに、あなたは三度わたしのこ とを知らないと言うだろう」(ヨハ ネ13・38)。今日のミサの福音は、 聖ペトロの否認を予告しています。 最後の晩餐の親密な雰囲気の中で、 ペトロは、イエスが彼の裏切りを予 知していることに驚きます。そのよ うなことが起こるはずがありませ ん。彼は死ぬまでイエスに忠実であ りたいと思っています。ペトロは、 イエスが敵に引き渡され、十字架に つけられることなど許すわけにはい かないと考えます。ペトロは以前、 イエスの将来の受難と死についての 言葉を理解することができませんで したが、今もそれを受け入れること ができません。

聖ペトロは自分なりに、イエスのために命を捧げる覚悟はできていると考えています。実際、イエスが逮捕されたときには剣を抜き、主を捕らえようと武装してやってきた人々に立ち向かおうとしています。彼はイ

エスに対する勇気や尊敬を欠いてい たわけではありません。しかし、こ れらの資質だけでは不十分であるこ とを、その後の経験が彼に教えるこ とになります。ペトロには、自己認 識と神についての理解に由来する謙 遜がまだ足りませんでした。イエス は最後まで聖ペトロを養成し続けま す。この教訓は、彼の人生で最も重 要なものとなります。ペトロは、自 身の強さによってではなく、イエス を深く知ることから得た謙遜によっ て岩となります。彼は自分の力の不 十分さを経験し、自分を支えてくだ さるのは神であることを悟る必要が ありました。

今日の福音書は、ペトロの裏切りを 告知するとともに、ユダの裏切りを 予告します。それは両者の大きな違 いを把握するのに役立ちます。ペト

口は自分の弱さをイエスの手に委ね ました。彼は自分の過ちや自分の強 さに焦点を当てるのではなく、神の いつくしみ、神の計画、神のやり方 を信頼することを学びました。自分 は死ぬまで忠実であるとイエスに 言ったとき、ペトロはイエスを欺い ていたわけではありません。しか し、彼はほとんど自分の力、自分の 能力だけに頼っていました。対照的 にユダは、イエスの前で自分の裏切 りを認めず、常に体裁を保とうとし たのです。ペトロは、大祭司の家で 女中に質問されたとき、それに屈す ることになりましたが、少なくとも キリストと一緒にいたときは、体裁 など気にしていませんでした。

聖アウグスティヌスは問いかけます。「功徳、義、動機を探し求めよ。恵みではないものを見いだすことができるだろうか」Ⅲ。聖ペトロは、イエスに対する自分の愛はすでに大きく、どんな試練にも耐えるに

聖ベルナルドは言います。「人のよいます。「人のようがといます。」といったがたは、自分がといったされたかを考えるを苦しかを考えなさい。苦しいので受けたらいたがあるかを学びない。できないない。できないないできない。できないないできない。できないないできない。できないないできない。彼が人間として小さくない。

ばなるほど、その善良さがより明確に表れます。彼が私のために身を低くされればされるほど、彼は今、私にとって愛すべき存在となるのです」[2]。

「あまりにしばしばわたしたちは、 神はわたしたちの長所、優れている ところだけを当てにしていると考え てしまいますが、実際には、神の計 画のほとんどは、わたしたちの弱さ を通して、また弱さにもかかわら ず、実現されるのです。 (…)。悪 霊は否定的評価をもってわたしたち 自身の弱さを見せつけますが、他方 聖霊は、優しさをもってそれを明る みに引き出してくれます。優しさ は、わたしたちの弱い部分に触れる ための最高の方法です (…)。神へ の信仰をもつということは、わたし たちの恐れ、もろさ、弱さを通して

も神は働かれると信じることをも含 (みます) (…)。また、人生の嵐 の中にあっても、わたしたちの舟 舵を神にゆだねることを恐れてはならないと教えます。時にわたしたちは、すべてをコントロールしようとします。ですが、主はつねに、より広い視野をもっておられるのです」

神は、私たちが主を信頼し、私たち が持っている善いもの一それは主か らの賜物です一を信頼することを望 んでおられます。私たちは、神を信 頼することによって、自己の才能や 力を一それが多かろうが少なかろう が一頼りにすることができます。な ぜなら神がそれらを用いて豊かな実 りをもたらしてくださるからです。 このことは私たちに安心を与えま す。私たちに託された使命は私たち の力を超えるものです。その遂行に あたり、私たちは自分の才能や適性 だけを頼りにするのではありませ

ん。しかし同時に、神はそれらを活用したいと望んでおられます。このように神が私たちと協力してその御業を実現したいと望んでいることは、主の私たちへの愛の表われであり、そのことは私たちを驚きと喜びで満たします。

幼きイエスの聖テレジアは言及して います。「聖ペトロがなぜ倒れたの か、私にはよくわかります。哀れな ペトロは、神の力だけに頼ろうとせ ずに、自分自身に頼っていたので す。もし聖ペトロがイエスに『死に 至るまであなたに従っていく恵みを お与えください』と謙虚に願ったな ら、彼はすぐにその恵みを受けたこ とでしょう (…)。 罪人でいっぱい の教会を治める前に、彼は神の助け なしに人間に何ができるかを自分自 身で経験しなければならなかったの ですして。この教訓を学んだ聖ペト 口は、全能の神の力に頼りながら、 自分のすべての能力一それは神から

与えられた尊い賜物でした一を贖い への奉仕のために用いることができ るようになりました。聖ホセマリア は言います。「私たちが燃えるよう な心で主に『はい』と言い、主に忠 実であり、どんな犠牲も払う用意が あると言うとき、私たちはまた主に 言うでしょう。イエスよ、あなたの 恵みを、私の母よ、あなたの助けを お願いします。私はとても弱いので す。多くの間違いを犯し、多くの小 さなあやまちを犯す私は、もしあな たがおられなければ、大きな間違い を犯してしまうのです! | ы

- [1] 聖アウグスチヌス、説教185。
- [2] 聖ベルナルド『主の公現に関する説教1』1-2。
- [3] フランシスコ、使徒的書簡『父 の心で』2番。

[4] 幼きイエスの聖テレジア『最後 の会話』1897年8月7日。

[5] 聖ホセマリア、手紙2、32番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-jyunan-kayou/(2025/12/11)